

Vol.1081

令和元年6月8日（土）

「中国」

また来月、中国に行くことになりました。

これまで、過去20年の間に、中国には何度も行ってきました。
ただの視察ではなく、コンサルティング受託も3度経験しました。
今回もコンサルティングのご要請で、その検討のための訪問です。

すぐに航空券を送るので、すぐに来てほしいと。
そのあたりは、さすがに中国には勢いがあります。

中国に対しては、賛否両論いろいろあります。
確かに、課題も多い国だと思います。
しかし、学ぶべきところもたくさんあります。
行く度に、見る度に、大きな変化を感じます。

かつて驚いたことのひとつに。
新幹線の駅が、まるっきり工事中なのに、すでに開業していたことを経験しました。
現地の仲間に聞くと、線路はできているのだから、開業して当然。
駅が未完成でも、交通機関という機能は果たせていると。
善し悪しの議論はあるにしても、日本の完璧主義より中国のうほうが、はるかにスピード感があることは間違いありません。

農業においても、細かく丁寧な農業技術では、いまでも中国よりも日本がはるかに上でしょう。
しかし、大規模農業経営という視点では、もはや中国がはるかに先行しています。
例えば、ドローンの活用などは、日本のレベルより桁が二つ三つも上という感じです。
だからスケールメリットが生まれ、ドローンが本格的に実用化されています。
日本では、まだまだ実証試験レベルです。
費用対効果が見合っていません。
資金投資も、はるかに日本より規模が大きく、またスピーディーです。
また、農業法人が、どんどん株式市場に上場しています。

思い切ったビジネスモデル、思い切った資金投資、一気に拡大するスピード感。
勿論、日本とは農地面積の違いや、法律面など、構造的に異なる部分は多々あります。
何でも中国のやり方良いと、言っているわけではありません。
それでも、学ぶべきところもたくさんあります。

いろんな現場に行くことは、五感が刺激されます。
行くこと自体がビジネスにならないとしても、それでも大きな意義があります。

五感とは、見る・聞く・触れる・味わう・嗅ぐということです。

インターネットで様々な情報を得ることはできても、せいぜい見ると聞くの二感ぐらいでしょう。

二感よりも五感のほうが、はるかに刺激的です。

だから、現場に行くことがとても大事です。

最近では、わざわざ現場に行かなくても、いろんな方法で情報を得られると思っている人も多いようですが、

しかし、それは所詮バーチャル（仮想）の域を出ません。

好奇心をもって、どんどん現場に行くことです。

中国の地方をまわることは、決して快適ではなかったりすることも多々あります。

しかし、それでも五感を刺激され、多くのことを学ぶことができるから行ってきます。

中国で唯一最大の注意事項は、

歓迎パーティーが何度も催され、白酒（ばいちゅう）という強烈な酒の、カンペー—気飲み攻撃が続くことです。